

「しんぶん赤旗」
発行の危機打開へ

あなたの
お力を!

タブーなく真実を報道する 「しんぶん赤旗」を守り 発展させるために

2025年1月11日
日本共産党 第4回中央委員会総会

100万人の読者に 10億円の支援募金を

全国の支部と党員のみなさん、「しんぶん赤旗」読者、そして、「赤旗」に期待を寄せるすべてのみなさん。日ごろのご奮闘、ご購入、ご支援に心からの敬意と感謝を申し上げます。

いま、「赤旗」は、読者数の後退、諸経費の増大のため、発行の危機がいよいよ切迫しています。私たちは、この危機を乗り越え、「赤旗」の発行を守るため、読者を100万人にし、「赤旗」支援募金を10億円集めることを決断し、ご協力、ご支援を、みなさんをお願いすることにしました。

昨年の総選挙では、自民党・公明党の政権与党を過半数割れに追い込み、改憲勢力は衆院で3分の2を割り込みました。これに日本共産党と「赤旗」が大きく貢献したこと、とりわけ、日曜版の一連の裏金報道、日刊紙の裏公認料2千万円のスクープが決定打となったことは私たちの誇りです。

総選挙後、党の本部に、「ありがとう『赤旗』」「応援したい」など、日刊紙、日曜版、電子版の申し込みが2943人にも達していることは私たちにとっても初めてのことです。選挙結果を、多くの国民が歓迎し、自民党政治に代わる新しい政治を模索し、探求する「新しい政治プロセス」が始まっています。「赤旗」の役割はいよいよ大きくなっています。

世界と日本の現実を直視し、さまざまな出来事の実態を伝える「赤旗」は、暮らしを守り、平和を願う国民の思いに正面からこたえることのできる新聞です。国民のなかにうずまき願いや要求、各界各分野のたたかいを励まし、各地の草の根のとりくみを伝えているのも「赤旗」です。政治を変えていくうえで、なくてはならない新聞ではないでしょうか。

ところがいま、この「赤旗」の経営が大変厳しい事態にあります。日刊紙は、年間10数億円の赤字であり、日曜版の読者数も後退が続いています。

そこで、「赤旗」の発行を守るために二つのお願いがあります。

お知らせに購読を勧めて

一つは、現在、日刊紙、日曜版、電子版合わせて80数万人の「赤旗」読者を100万人にするために、あなたのお力をお貸しいただきたいのです。

100万人の読者は、私たちが昨年1月の第29回党大会で決め、今年中に実現しようと決意した目標です。100万人の読者

にできれば、発行を守ることができます。なによりも、社会の真実を知らせる力、デマやごまかしを許さない正義の力、世代と性別を問わず一人ひとりの幸せ、みんなの幸せを大事にする社会に変える力を大きくできます。選挙で日本共産党の議席を増やし、政治に国民の声が届く力を大きくできます。

ぜひ、あなたのお知り合いに「赤旗」の購読を勧めてください。対象となる方を紹介してください。「#『赤旗』を読もう」などSNSで広げてください。

SNSも使い広く募金を

もう一つは、今年1年間に10億円の「赤旗」支援募金をお願いしたいのです。

「赤旗」の発行を守るためには、読者を100万人にするとともに、そこに至る途上、とくに日刊紙の発行を支える10億円の募金が必要です。日曜版電子版の準備などのためにも必要です。

ぜひとも、あなたのご協力をお願いします。SNSなども使い、お知らせにも広く呼びかけていただきたいのです。

私たちは、「赤旗」を守り抜くことは、党にとってはもちろん、日本社会の民主主義にとっても必要な国民的事業だと考えています。献金をテコにした財界の利益優先の政治、「日米同盟」絶対のアメリカいいなり政治をやめさせ、平和と暮らし・民主主義のために働く、「闇夜のなかで輝く理性と良心のたいまつ」である「赤旗」を絶対になくすわけにはいきません。ひきつづき、紙面の改革に全力を尽くします。

「しんぶん赤旗」を守るため、みなさんのお力をお貸しい。心からお願いします。

募金先

郵便振替

【口座番号】 00170-7-98422

【加入者名】 日本共産党中央委員会

通信欄に「赤旗募金」と記入のうえ、住所、氏名、職業をお書きください。

クレジット カード

こちらから
アクセスしてください▶



事務所・ 党員

最寄りの党事務所もしくは
お知らせの党員にお渡しください。



ニセ情報が拡散する中 「赤旗」情報は貴重

エコノミスト **浜 矩子**さん

SNSでニセ情報が拡散しやすい世の中になっているがゆえに、独自の調査と分析で真実を暴く共産党と「赤旗」は貴重です。

昨年の選挙でニセ預言者が跋扈（ばっこ）し、SNSで世の中を振り回しました。生活を脅かされた人々がそこに救いを求めてしまうから危険なのです。知識人は馬鹿にせず、恐れるべきです。

共産党と「赤旗」は真の預言者の要素をお持ちです。人をクスッと笑わせる茶目っ気と諧謔（かいぎやく）精神を身に着ければ、さらにレベルが上がるでしょう。「赤旗」の存続は共産党の社会的責任です。



「赤旗」の調査能力は ずば抜けている

元公明党副委員長 **二見伸明**さん

今の政治状況はメチャクチャ。こういう時だからこそ、まともな理念や政策を掲げる政党が必要だ。世の中の出来事を、きちんと報道しているのは、「しんぶん赤旗」だけだと断言できる。

「赤旗」の調査能力はずば抜けている。カオス（混沌）の時代にあって、調べに調べて本当のことを忖度なく書く「赤旗」の価値は非常に大きい。「赤旗」が増えるとは、それだけ世の中に真実の声が伝わるということ。

共産党は「赤旗」の発行を守るため、読者を増やして100万人にすることと10億円の支援募金を呼びかけた。貧者の一灯。私も協力したい。



「赤旗」スクープが 自民党惨敗をおこした

神戸学院大学教授 **上脇博之**さん

「赤旗」日曜版の自民党派閥による裏金問題と、日刊紙の総選挙で非公認候補へ2000万円の政党交付金を渡した問題は、大スクープです。

これが衆議院選挙へ多大な影響を及ぼし、自民党が惨敗をして過半数割れをおこしました。

「政治とカネ」問題の報道をとってみても、これだけ影響力を持った機関紙をぜひ一人でも多くの人に読んでほしい。

新聞をじっくり読みたい人はいます。新聞が減るのは、自民党政権による新自由主義の政策で痛みを庶民に押しつけて購買力を奪っているからです。

「赤旗」を読んで、一人ひとりが政治に多大な影響を及ぼす力をつけてほしいですね。



他のメディアが 無視することも 的確に報道

弁護士 **角田由紀子**さん

「赤旗」がない生活など考えることもできません。「赤旗」は私の大事な友人であり、師でもあります。

「赤旗」は他のメディアが無視していた時的確な報道をしてくれました。先日のハラスメント禁止についてのジェンダー法学会の声明の報道もそうでした。私は法学会の会員ですが、「赤旗」の報道で「声明」を知ったのです。いつもおざなりな報道ではなく本質をついた報道に励まされてきました。

いま私たちが直面している困難な毎日を打開し、そのさきにある希望の未来を現実のものにするために、「赤旗」の力はますます重要になっています。



政党機関紙を超えた 社会正義の情報源

室蘭工業大学教授 **清末愛砂**さん

「赤旗」に期待してきたことは、政治の闇の部分や政治的に隠された背景に、忖度なく切り込んでくれることです。党员とか、支持者であるか否かを超えて、実はメディア人も含めて「赤旗」がやってくれるのではないのかという期待があると思います。

「赤旗」が無くなることは、社会にとって、非常に大きなロス（損失）です。あってはならないことだと思います。政党機関紙を超えた、社会正義のための情報源です。だからこそ、できるだけ多くの人に「赤旗」の継続のための支援として何ができるのかを考えてほしいと思います。

